

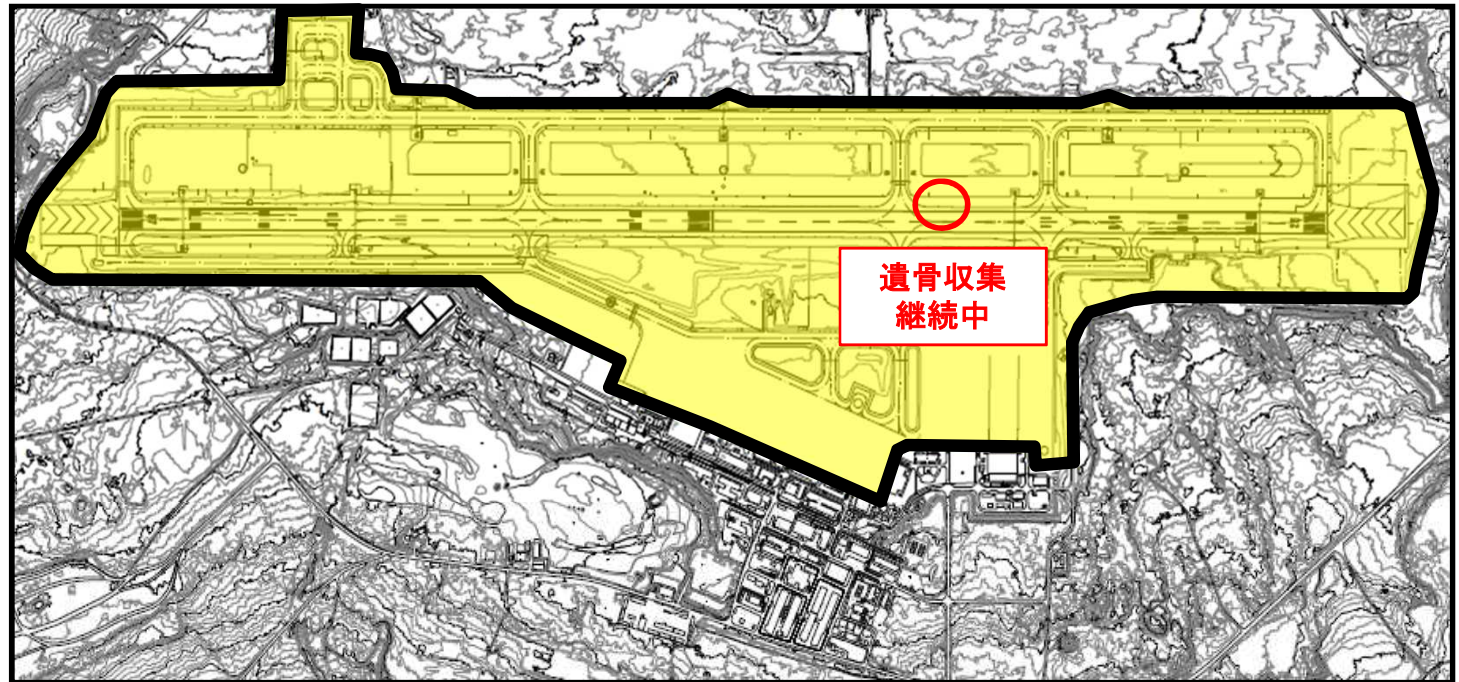
平成30年度の取組状況等

平成30年度実施計画	これまでの取組状況等（平成31年3月31日現在）
1. 滑走路地区の掘削・遺骨収容	
○ 未探索の壕1箇所の継続調査。 ○ 庁舎地区の反応箇所1,559箇所中、30年度に実施可能な箇所の掘削・遺骨収容。 ○ 滑走路周辺部で確認されている探査済みの壕の構造解析を行い、閉塞地点の先に該当する地上部分でボーリング調査等を実施。 ○ 地下10mを超える深度までの探査が可能な改良型高性能地中探査レーダの開発。	○ 壕内で2柱(計4柱)の御遺骨を収容。31年度も引き続き遺骨収容を実施する。 また、壕の奥にある2箇所の閉塞地点の地上部分よりボーリング調査を実施したところ、閉塞していた1箇所は地上に向かって延長部が確認された。もう1箇所の閉塞先は堀止となっていることが確認された。 閉塞先の延長部の作業工法に工夫を要するため、31年度に遺骨収容方法の検討を行う。 ○ 850箇所の掘削調査を実施した。 (御遺骨は確認されなかった。) ○ 7箇所の壕のボーリング調査を実施したが、滑走路方向への延長は確認されなかった。 31年度も引き続きボーリング調査等を実施。 ○ 改良型高性能地中探査レーダの開発完了。性能実施試験の後、31年度において同レーダによる滑走路地区の空洞再探査を実施。
2. 外周道路外側の面的調査・遺骨収容	
○ 平成27年度～29年度調査区域の面的調査により確認された壕等134箇所からの遺骨収容。 ○ 平成30年度調査予定区域について面的調査・遺骨収容。	○ 壕等134箇所のうち、22箇所の調査を実施した結果、30柱の御遺骨を収容した。 残る112箇所については、31年度に調査・遺骨収容を実施する。 ○ 調査予定区域について踏査等を行い、その過程で新たに確認された壕等7箇所のうち2箇所について調査を実施した結果、2柱の御遺骨を収容した。 31年度に同区域で確認された壕等の調査を行い、掘削・遺骨収容を実施する。 また、調査予定区域外であるが、遺骨収集団の一部団員の強い要望により掘削調査を行った西海岸近くの砂地から8柱の御遺骨を収容した。
3. 滑走路地区周辺以外の地下壕調査	
○ 滑走路地区周辺以外の探査済みの壕の構造解析を行い、閉塞地点の先に該当する地上部分でボーリング調査等を実施。	○ 2箇所の壕の内部測量・構造解析を行った。閉塞地点の先の地上部分が崖地であるなどボーリング調査方法に工夫を要するため、31年度にボーリング調査等を実施する。

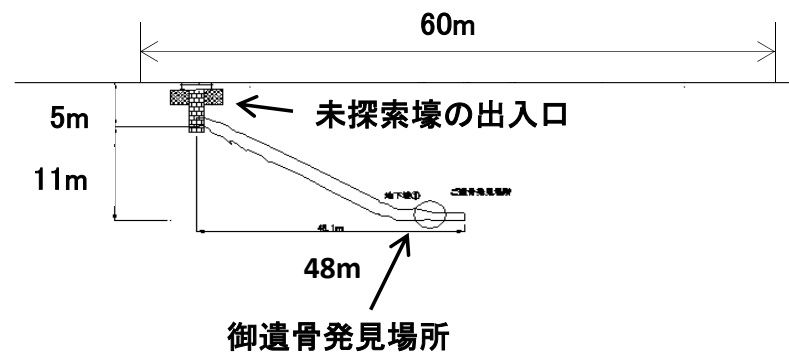
1-1. 滑走路地区未探索壕の平成30年度調査結果

壕内は極めて高温であることから、強力な冷房機器を接続した送風管で壕内に冷気を送り続けるなど、安全対策を講じた上で、御遺骨の収容作業を実施した。

昨年度の継続箇所等から収容作業を実施し、その結果、壕内で2柱(計4柱)の御遺骨を収容した。



滑走路断面図



1-3. 庁舎地区の掘削・遺骨収容

①反応箇所の掘削範囲を特定し、重機により掘削を行う。



②レーダ反応深度まで掘削し、反応対象物の確認を行う。



③反応箇所がコンクリートなどの舗装箇所の場合は、既設舗装版を撤去し、確認後、舗装復旧を行う。

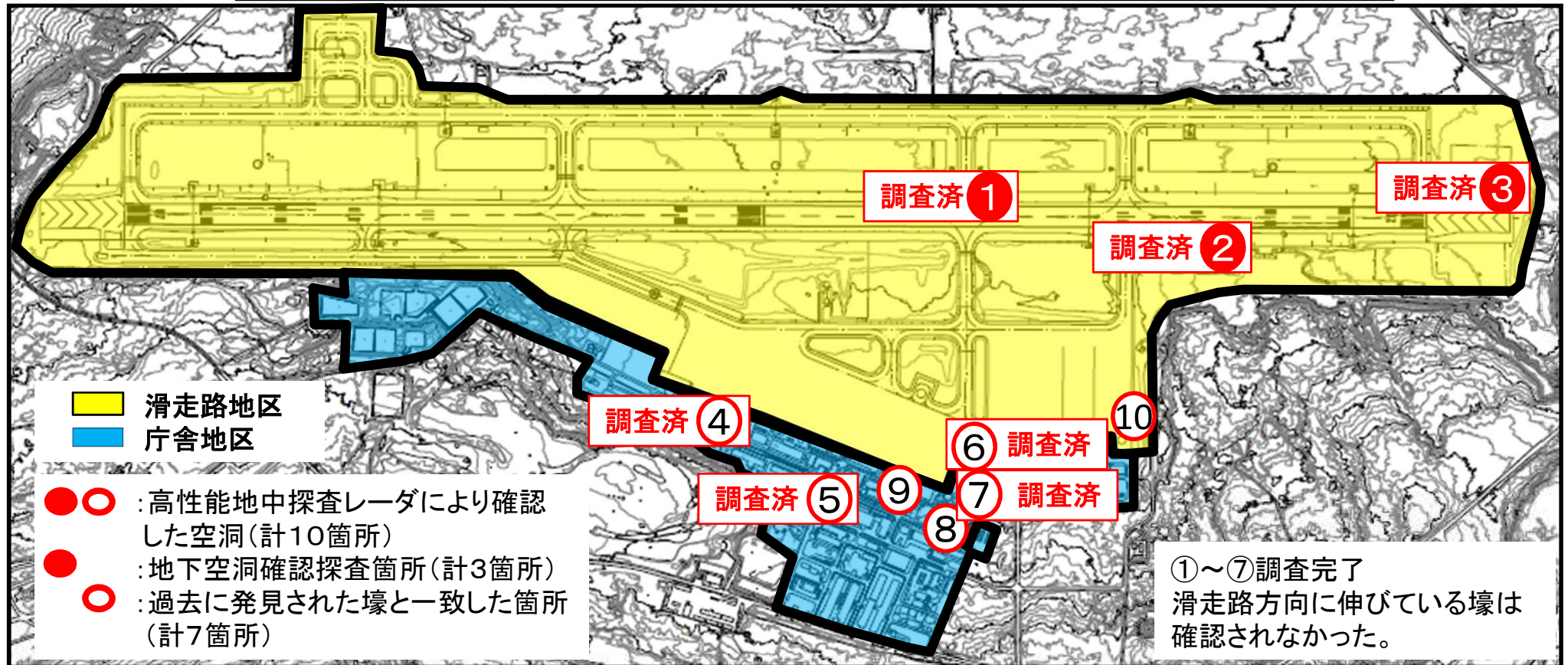


2. 外周道路外側の面的調査・遺骨収容

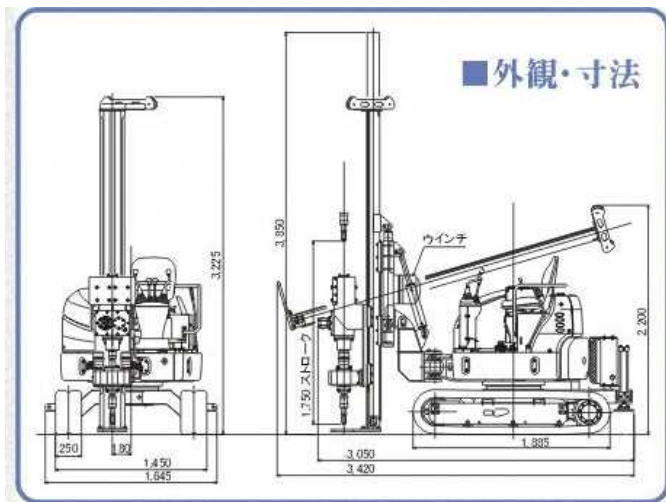
面的調査の結果、
発見された壕に
おいて遺骨収容
を実施し、その
結果、40柱の御
遺骨を収容した。



3. 閉塞先地下壕ボーリング調査の結果



ボーリングマシンの仕様



仕様	
名称	パイプドリル(クローラータイプ)
形式	ECO-3V
◆ドリフタ	
起振力	30 kN (空運転時)
回転数	13 min ⁻¹ (高トルク時) 26 min ⁻¹ (低トルク時)
回転トルク	3.8 kN*m {385 kgf*m} 1.9 kN*m {190 kgf*m}
◆フィード	
形式	オイルシリンダフィード
フィード力(押し)	43 kN
フィード力(引き)	73 kN
フィードストローク	1,750 mm
◆マシン出力・寸法・質量	
マシン出力	14/2,200 kW/min ⁻¹
寸法(L×W×H)	3,420mm×1,645mm×2,200mm (運搬時)
質量	2,650 kg

掘削状況

